

「結」（結び直し）に思いを込めて

例年より早い梅雨入りから今日まで、各学校では、児童・生徒の安心・安全な通学や学校生活に神経を使われたことと思います。

さて、月日の流れは早いもので、今年度も7月に入りました。ほとんどの小学校では5年生の体験活動として田植えが行われ、幾つかの学校の様子を見学させていただきましたが、子供たちの活動を地域住民、農業後継者クラブ、PTA等、たくさんの方々がそれぞれに支援されていました。そのような光景に出会う度に、本市内の小中学校は以前から地域と緊密につながりながら学校運営が推進されてきたことを強く感じました。



そのことは、学校から言わせれば、「地域とともにある学校」、地域から言わせると、「学校を核とした地域づくり（コミュニティの形成）」が、互いに意識せずとも形成され、今日まで脈々と続いている証でもあります。

まさに、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な取り組みが営まれているのです。

今更ながら、私が担う地域学校協働活動が本市では必要なのだろうか？との贅沢な悩みが脳裏をふと過ってしまいます。

とは言うものの、活動を支援されるボランティアや推進員の方々から当時の様子を伺うと、昔ほどのつながりの強さが失われつつあるように感じました。

だからこそ、やはりこの活動がこの時代に必要なのだと改めて実感した次第です。また、ここ2～3年は新型コロナ感染症拡大により、これまでの地域と学校のつながりが休止状態になる等、地域学校協働活動にとって逆風が吹き荒れました。幸い、今年度は感染症が縮小傾向となり、新型コロナが感染症法でも2類から5類へと引き下げられたことで、再び順風を吹かせるチャンスを迎えたように思います。

本便りのタイトルでもあります「結」は、学校と地域、地域住民の再びの結び直しを願いつつ設けたタイトルでもあります。そのタイトル「結」に思いを込めてこれからの活動を支援していきたいと思います。

1 学 期 の 主 な 活 動 の 様 子



地域学校協働活動は、学校と地域が協働・連携して双方向で取り組む活動です。